

情報科学専門学校

平成 27 年度学校関係者評価報告書

1. 学校関係者評価会実施要領

日時	平成 28 年 9 月 2 日(金) 16 : 20~18 : 00	
場所	情報科学専門学校 8 階 801 教室	
参加者	学校関係者評価委員	小川名 剛彦 (神奈川県情報サービス産業協会 常務理事 産学連携委員会委員長)
		長谷川 長一 (株式会社ラック 理事)
	本校教職員	松岡 秀和 (株式会社日経統合システム 事業開発本部 副本部長 兼 第一開発グループ部長/本校卒業生)
		和田 裕子 (情報科学専門学校 保護者)
		川上 隆 (教務部長)
		伊藤 泰宏 (教務部 教務課 課長/業務リーダー (統括・広報学生募集担当))
		那須 宗夫 (教務部 教務課 課長/業務リーダー (1 学年担当))
		山上 紀彦 (教務部 教務課 課長補佐/業務リーダー (3・4 学年担当))
		小倉 正己 (教務部 教務課 課長補佐/業務リーダー (3・4 学年担当))
資料	<ul style="list-style-type: none">・平成 27 年度自己点検評価報告書・情報科学専門学校 学校案内パンフレット・「卒業生に関する職場に於けるアンケート調査」集計結果報告書・第 1 回高校生セキュリティコンテスト開催につきまして	

2. 自己点検評価結果報告および各項目に対する学校関係者評価

2-1. 教育理念・目標

学校が設定する評価項目	自己点検評価の概要	学校関係者からの評価
<ul style="list-style-type: none"> ・理念・目的・育成人材像は定められているか（専門分野の特性が明確になっているか） ・学校の将来構想を描くために、業界の動向やニーズ調査しているか ・各学科の教育目標、育成人材像は、学科等に対応する業界のニーズに向けて方向づけられているか ・学校における職業教育の特色は明確になっているか ・理念・目的・育成人材像・特色・将来構想などが学生・保護者等に周知されているか 	<ul style="list-style-type: none"> ・理念、目的、育成人材像、特色、将来構想等について入学時の新入生保護者ガイダンスにおいて説明をしているが、ガイダンス欠席者や在校生に対する周知・徹底が不十分である。 ・今年度より学校案内パンフレットに理念・目的・育成人材像が明記されており、入学前の高校生・保護者にも納得して入学いただけるよう説明を行う。 ・入学後の2週間の導入教育「基礎ゼミナール」の授業内で、上記について周知・徹底を図る。 ・保護者宛発送文書に上記ガイダンスの配布資料を同封する。 ・平成25年度より業界団体の有識者および学科ごとの専門分野に対応した外部企業の有識者からなる「教育課程編成委員会」を年2回定期開催。これにより、業界の動向や企業のニーズに合わせて学科ごとの育成人材像を迅速に見直すことができる体制となっている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・今年度より実施されている卒業生へのアンケートについて、教育理念を問うもの教育理念が現在の自身の指針にどう影響しているかを盛り込んではどうか。

2-2. 学校運営

学校が設定する評価項目	自己点検評価の概要	学校関係者からの評価
<ul style="list-style-type: none"> ・専修学校設置基準及び職業実践専門課程認定要件に沿った適切な運営がなされているか ・運営組織や意志決定機能は、規則等において明確化されているか、有効に機能しているか ・教務・財務等の組織整備など意思決定システムは整備されているか ・目的等に沿った事業計画が策定されているか ・事業計画に沿った運営方針が策定されているか ・人事、給与に関する制度は整備されているか ・教職員と非常勤講師等との定期的な情報共有を図っているか ・業界や地域社会等に対するコンプライアンス体制が整備されているか ・教育活動に関する情報公開が適切になされているか ・情報システム化等による業務の効率化が図られているか ・教育方針や目標を含むマネジメントシステムの継続的な適合性、妥当性、有効性を確保するためにマネジメントレビューを実施しているか ・学生や保護者、その他利害関係者からの苦情・要請等への対応など、不適合を特定し、対処する手順（予防処置及び是正処置）を確立しているか ・利害関係者が不満を抱いている場合や、利害関係者と学校側とで意見の相違がある場合の相談受付方法を案内しているか 	<ul style="list-style-type: none"> ・利害関係者（学生、保護者、地域社会、業界、高校教員等）からの苦情・要請への対応として、電話、メールによる問い合わせ窓口を設定しているが、標準的な対応手順書が整備されていない ・問合せ内容別の対応方法をまとめた対応手順書を作成 ・就職率、出席率、資格合格率、教員アンケートスコアなど教育に関する成果は極力数値化し、年度ごとに目標をたて、実績を振り返り、改善策を立案するPDCAサイクルが確立できている ・また、出席管理、成績管理、就職支援、学生支援等の各種学内システムを構築し、業務の効率化を進めるとともにデータを可視化することで教育の質向上にも役立てている 	<ul style="list-style-type: none"> ・現状の取り組みについて特段の問題は無い

2-3. 教育活動

学校が設定する評価項目	自己点検評価の概要	学校関係者からの評価
<ul style="list-style-type: none"> ・教育理念、育成人材像や業界のニーズを踏まえた教育機関としての修業年限に対応した教育到達レベルや学習時間の確保は明確にされているか ・キャリア教育・実践的な職業教育の視点に立ったカリキュラムや教育方法の工夫・開発などが実施されているか ・教育理念等に沿った教育課程の編成・実施方針等が策定されているか ・情報・IT 分野の企業・関係施設等、業界団体等との連携により、カリキュラムの作成・見直し等が行われているか ・資格取得の指導体制、カリキュラムの中での体系的な位置づけはあるか ・学科等のカリキュラムは体系的に編成されているか ・Can-Do を意識した各科目の授業シラバスが作成されているか ・情報・IT 分野における実践的な職業教育（産学連携によるインターンシップ、実技・実習等）が体系的に位置づけられているか ・シラバスあるいは講義要項などが事前に学生に配布されているか ・実習室等の学校施設、設備の利用割り当て（スケジュール管理）が明確になっているか ・学生によるアンケートなどで、適切に授業評価を実施しているか ・成績評価・単位認定の基準は明確になっているか ・職業教育に関する外部関係者からの評価を取り入れているか ・授業評価の実施・評価体制はあるか ・閲覧権限の設定がなされ、個人情報保護への配慮がされているか 	<ul style="list-style-type: none"> ・各専門分野に対応した教員を確保するように努めているが、教職員に必要なコンピテンシーを定義した。職務記述書は未整備である。 ・人事考課は学校の年度目標を基に作成した個人目標の達成状況を踏まえて実施している。ただし、職務記述書との関連付けはなされていない。 ・職種ごとに求められるコアコンピテンシーを整理した職務記述書を平成 28 年度内に作成。 ・当校の学習ガイド（シラバス）は「〇〇について学ぶ」ではなく「〇〇を確実に習得する」という形式で作成されている。そのため教員の役割は「授業を行うこと」ではなく「学生に理解させること」と定義されている。学生の理解が不十分な場合は補講を行うなどして確実に理解度を保証する仕組みとなっている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・外部との関わり、特に学生が社会人と一緒になって取り組む機会を多く持っていることは良いと思う ・アイデア止まりになりがちな、社会人との取り組みがアプリケーションとして実現できていることは、もっとアピールしてほしい。 ・授業の開始時間について、定刻に始められることを徹底できない教員が一部いるようだ。社会に出ると時間に対する厳しさも増すので、徹底してほしい。 ・時代の変化に合わせて、スピード感と自由度を持ったカリキュラム編成となっている。

- | | | |
|--|--|--|
| <ul style="list-style-type: none">・教育の質向上に役立つ改善点を明確にするために、教育を提供している状況（学習環境等）を確認・検証しているか・人材育成目標に向け授業を行うことができる要件を備えた教員を確保しているか・教職員のコンピテンシーを職務記述書と関連付けながら評価し、それらの評価結果を記録しているか・情報・IT分野における先端的な知識・技能等を修得するための研修や教員の指導力育成など資質向上のための取組が行われているか・職員の能力開発のための研修等が行われているか（研修等の効果の評価し、文書により記録しているか）・情報・IT分野における業界等との連携において優れた教員（本務・兼務含め）の提供先を確保するなどマネジメントが行われているか | | |
|--|--|--|

2-4. 学修成果

学校が設定する評価項目	自己点検評価の概要	学校関係者からの評価
<ul style="list-style-type: none"> ・学生の学修成果の評価に際して、育成する人材像に沿った評価項目を定め、明確な基準で実施されているか ・卒業生・在校生の社会的な活躍及び評価を把握しているか ・評価目標ならびに想定される評価範囲を記述できているか ・学生の評価だけでなく、教職員やカリキュラムの評価も含め、評価方法及び手段、スケジュール及び根拠を記述しているか ・成績証明書等、評価結果が社会的通用性を高める形式となっているか ・ニーズ調査結果に基づき目的（到達目標）を設定し、目的に対する評価を結論としてとりまとめた評価報告書を作成しているか ・学習サービス（教育・訓練）を受託または委託する場合、目的、要望、最終目標及び要件を明確にしているか ・卒業後のキャリア形成への効果を把握し学校の教育活動の改善に活用されているか 	<ul style="list-style-type: none"> ・外部機関（高校等）から学習サービスを受託する際の契約書に具体的な到達目標が明記されていない。 ・平成 28 年度以降受託する案件については学内向けの学習ガイド（シラバス）に準拠した形式で具体的な到達目標を明記する。 ・平成 27 年度より、学生の就職先企業宛てに当校で学習したことが実務で活かされているかどうか本人および直属の上司に確認する「就職先アンケート」を実施。平成 28 年度はそれを踏まえて、より実務に即したカリキュラムを構築するための 3 か年計画を作成。 	<ul style="list-style-type: none"> ・就職先アンケートについて、今回は新卒者のみとのことだが、将来的に卒業後 3 年目や 5 年目を対象にすると学校で学んだものが業務にどう活かされているか等、幅がみえてくるのではないか。

2-5. 学生支援

学校が設定する評価項目	自己点検評価の概要	学校関係者からの評価
<ul style="list-style-type: none"> ・進路・就職に関する支援体制は整備されているか ・学生相談に関する体制は整備されているか ・保護者と適切に連携しているか ・社会人学生のニーズを踏まえた教育環境が整備されているか ・卒業生への支援体制はあるか ・図書室・図書コーナー等、ホットライン、カウンセリングサービス、コンピュータの利用、メンタリングなどの学習サポートについて案内しているか ・学生の経済的側面に対する支援体制は整備されているか ・学生の健康管理を担う組織体制はあるか ・課外活動に対する支援体制は整備されているか ・学生の生活環境への支援は行われているか ・高校・高等専修学校等との連携によるキャリア教育、職業教育の取組が行われているか 	<ul style="list-style-type: none"> ・就職支援、学習支援はもとより保護者との連携、担任による生活指導、学内カウンセラーの配置など在校生に対する支援体制は確立されているが、卒業生に対する支援体制がホームページによる情報提供にとどまっている ・平成 28 年度から開始する「卒業生交流会」を通じて、卒業生同士の交流機会を増やすとともに、卒業生のニーズの把握に努める ・従来の貸与型奨学金制度に加え、「岩崎ともみ奨学財団」による給付型奨学金の制度を開始 学習意欲がありながら経済的事情により就学困難な学生への支援を強化 	<ul style="list-style-type: none"> ・卒業生組織「校友会」Web ページのコンテンツがさびしく、これを充実させると卒業生同士の交流が高まることもあるのではないかと

2-6. 教育環境

学校が設定する評価項目	自己点検評価の概要	学校関係者からの評価
<ul style="list-style-type: none"> ・施設・設備は、教育上の必要性に十分対応できるよう整備されているか ・学校施設・備品等が定期的に管理・点検されているか。 ・教職員に対して、学習指導のための教育訓練や安全管理のための避難訓練を実施しているか ・防災に対する体制は整備されているか ・学内外の実習施設、インターンシップ、海外研修等について十分な教育体制を整備しているか 	<ul style="list-style-type: none"> ・学校施設、備品（コンピュータ、周辺装置、図書 等）は定期的に点検しているが、備品の管理台帳が存在しないため、備品所在・点検状況を確認しにくい状況にある ・各授業教室の施設・備品の管理責任者を明記 毎週金曜日に設備・備品のチェックを行い、不具合がある場合は各学年のグループリーダーに報告し直ちに是正する ・平成 28 年度より教務課長が甲種防火・防犯管理者の資格を取得し、防災計画の見直しに着手している 	<ul style="list-style-type: none"> ・現状の取り組みについて特段の問題は無い

2-7. 学生の受入れ募集

学校が設定する評価項目	自己点検評価の概要	学校関係者からの評価
<ul style="list-style-type: none"> ・ 学生募集活動は、適正に行われているか（例えば、入学願書などの契約書を取り交わし、それらの文書を適切に管理しているか） ・ 履歴書（学歴、所有資格など）を適切に入手し、適切な管理を行っているか ・ 学校案内等には選抜方法など、入学に必要なスキル、資格、職業経験などの、前提となる要件が明示されているか ・ 学校案内等に、学費、受験料、学習教材の購入費等が明示されているか ・ 学生募集活動において、教育成果は正確に伝えられているか ・ 評価手段及びその基準、修了時に発行される証明書等について説明しているか ・ 学力の不足や障がいに関する特別なニーズを特定しているか ・ 教育の履行、人的・物的資源の提供、個人情報の取り扱い、安全管理など、学校側の義務と責任を学生と保護者に案内しているか ・ 学納金は妥当なものとなっているか 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 評価手段、基準等に関する詳しい説明は入学前に行っていない ・ 希望者には学生生活の手引きを見せるなどして説明を行うようにする ・ 職業実践専門課程認可を期に就職率、退学率等のデータも公表するなど透明性を高め、受験生にとって誤解になきよう努めている 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 現状の取り組みについて特設の問題は無い

2-8. 教育の内部質保証システム

学校が設定する評価項目	自己点検評価の概要	学校関係者からの評価
<ul style="list-style-type: none"> ・個人情報に関し、その保護のための対策がとられているか ・法令、専修学校設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか ・文書管理規程、文書管理リスト（ファイル管理簿）ならびに決裁の流れを含む決裁規程（文書処理規程）が文書化されているか ・自己点検・評価や内部監査の実施と問題点の改善に努めているか ・監査や評価基準の知識を有する適任者により適切に監査され、当該課程・部署の責任者に監査結果を報告しているか ・内部監査での指摘事項として、改善すべき点を明確にしているか ・内部監査の結果を受けて取られる処置が、適切な時期及び適切な方法で実施されているか ・自己点検・評価結果を公開しているか 	<ul style="list-style-type: none"> ・自己点検評価はおこなっているが内部監査（学校法人内も他部門に在籍する ISO29990 内部監査員によるエビデンスのチェック、ヒアリング 等による監査）は組織的に行われていない ・ISO29990 内部監査員有資格者（教務課長）をリーダーとした内部監査委員会を組織し、自己点検評価に基づいて内部監査を実施予定 ・平成 25 年度より自己点検評価および学校関係者評価を行っている 今後、内部監査および第三者評価も取り入れ、より客観的な視点での業務改善・教育の質改善に努めたい 	<ul style="list-style-type: none"> ・現状の取り組みについて特段の問題は無い

2-9. 財務

学校が設定する評価項目	自己点検評価の概要	学校関係者からの評価
<ul style="list-style-type: none"> ・予算・収支計画は有効かつ妥当なものとなっている ・財務について会計監査が適正に行われているか ・財務情報公開の体制整備はできているか ・中長期的に学校の財務基盤は安定しているといえるか 	<ul style="list-style-type: none"> ・現状財務基盤は安定しており、継続的な学校運営に問題ない状況である 	<ul style="list-style-type: none"> ・現状の取り組みについて特段の問題は無い

2-10. 社会貢献・地域貢献

学校が設定する評価項目	自己点検評価の概要	学校関係者からの評価
<ul style="list-style-type: none"> ・学校の教育資源や施設を活用した社会貢献・地域貢献を行っているか ・学生のボランティア活動を奨励、支援しているか ・地域に対する公開講座・教育訓練（公共職業訓練等を含む）の受託等を積極的に実施しているか 	<ul style="list-style-type: none"> ・現状の地域貢献は主に講座、コンテストの実施および学生のボランティア活動への参加である。地域社会に対する上記以外の方法での貢献形態が考えられるかどうか、ニーズの把握に努めたい ・平成 28 年度より NPO 法人こどもネットミュージアムの正会員となり、よりきめ細やかな地域のニーズの把握に努めている 	<ul style="list-style-type: none"> ・セキュリティコンテストについて、現在、セキュリティを教えられる高校教員が少ないという実態がある 高校教員向けのセミナーを実施して、高校側の教育体制や環境を整えば、コンテストの対する高校生の興味 喚起につながるのではないか ・地域の清掃活動に取り組んでみてはどうか 簡単に行え、大勢で参加でき、地域のためになっている実感も得られるだろうと考える

2-11. 国際交流

学校が設定する評価項目	自己点検評価の概要	学校関係者からの評価
<ul style="list-style-type: none"> ・留学生の受入れ・派遣について戦略を持って行っているか ・留学生の受入れ・派遣、在籍管理等において適切な手続き等がとられているか ・留学生の学修・生活指導等について学内に適切な体制が整備されているか ・学習成果が国内外で評価される取組を行っているか 	<ul style="list-style-type: none"> ・就学を希望する留学生については、日本人学生と同様の基準で受入を行っている ただし、留学生を対象として、特別な支援体制は確立されていない ・留学生を受け入れることが教育の質向上にどのようにつながるかを見極めたうえで、留学生に対する支援策を検討したい ・平成 28 年度後期にガーナ、アルゼンチン、ナイジェリアの 3 カ国から海外技術研修員を受入れ、研修を行う予定となっている 	<ul style="list-style-type: none"> ・現状の取り組みについて特段の問題は無い

以上